

インクルーシブ教育システム構築推進事業
病弱・肢体不自由教育支援事業

平成29年度

肢体不自由・病弱教育地区別研修会

2017/8/17

病弱児の自立活動

秋田県立ゆり支援学校
道川分教室
教諭 佐藤美奈子

本日の内容

- 1 自立活動とは
- 2 病気の子どもの理解
- 3 病気の子どもへの対応と自立活動



1 自立活動とは

<目標>

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基礎を培う。

1 自立活動とは

<内容>

- 1 健康の保持
- 2 心理的な安定
- 3 人間関係の形成
- 4 環境の把握
- 5 身体の動き
- 6 コミュニケーション

2 病気の子どもへの理解

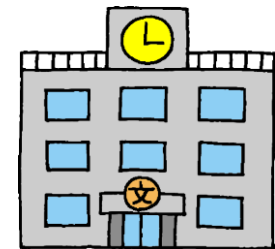
(1) 病気の子どもはどこにいるのか？

医療の進歩

⇒ 外来治療、自宅・自己管理

生活の変化

⇒ 家庭から地域の学校へ通学



2 病気の子どもへの理解

(2) 病気の多様な側面

病気の種類は無限に等しい

⇒ 認定されている小児特定慢性疾病だけでも722

病気の状態の変化は激しい

⇒ 同じ病気の子どもでもその時々で異なる対応

2 病気の子どもの理解

(3) 健常児との生活

「～したいな」

→実行する能力や技術はあるが . . .

→実行はできない



治療・管理＝他からの制限・自己管理

2 病気の子どもの理解

(4) 健常児との生活

管理できるがゆえに、健常者ととともに、「社会」の中にいることの大変さ

⇒ 支援の出発点は、子どもの気持ちに寄り添うこと



2 病気の子どもの理解

(5) 慢性疾病の特性の一つ

運動制限

食事・水分量の制限

⇒「子どもらしさ」の制限



「子どもらしさ」の制限（医療的ニーズ）を優先しつつ、
その他の部分で「子どもらしさ」を許容し育てる

2 病気の子どもの理解

(6) 情緒・自我の発達

大人の指示を素直に遂行する時期が終わる

⇒ 指示への反抗と疑問を示す時期

(小学校高学年・中学生)

⇒ 管理に拒否的



反抗は思春期の特徴：自我・社会性の発達にとって重要

2 病気の子どもの理解

(7) 何のために治療・管理するのか
子どもにとって・・・

明日の遠足、明日の学校が大事！

半年、1年、3年、6年先でも目標があれば
治療・管理ができる！



やることのある毎日が、治療・管理を促進する

3 病気の子どもへの対応と自立活動

(1) 実態把握をしっかりと

病気そのものの理解

子どもの状態像の把握

学校生活でできることとできないことの整理



「自立活動」の指導計画に反映

3 病気の子どもへの対応と自立活動

(2) 心情の理解

制限された生活の中で生きていること

⇒ 様々な葛藤

友達との違い

⇒ できない（やれない）ことが多い



そのため「心理的な安定」が重要

3 病気の子どもへの対応と自立活動

(3) 保護者・医療との連携

本人や保護者の願いや希望

⇒ 個別の指導計画や支援計画に反映

医療からの情報

⇒ 「学校生活管理指導表」の活用

校内での情報共有

⇒ 交流学級との連携

3 病気の子どもへの対応と自立活動

(4) 病弱児の自立活動

- ・ 実態把握 → 課題 何ができないのか
何が必要なのか
- ・ 課題 → 必要な力 現在
将来
- ・ 必要な力 → 目標 目指す姿
- ・ 目標 → 内容・手立て 教科的な内容でも
自立活動になる
(目標・手立ての違い)

3 病気の子どもへの対応と自立活動

例えば・・・「体育」的な内容（ボール運動）

体育の目標⇒技能面や意欲・態度

- ・ボールを正確に投げることができる

自立活動の目標⇒「健康の保持」又は「身体
の動き」

- ・自分に合った腕の動かし方や投げる回数
分かる

→自分にあった運動方法や継続時間、休憩
の取り方を学習する

3 病気の子どもへの対応と自立活動

例えば・・・「音楽」的な内容

音楽の目標⇒基礎的能力、情操を養う

- ・鑑賞活動を通して、情景を浮かべながら聴くことができる

自立活動の目標⇒「心理的な安定」

- ・鑑賞活動を通して、情緒の安定を図る
→音楽を聴くことで気持ちを穏やかにし、感情のコントロールの仕方を学習する

3 病気の子どもへの対応と自立活動

- (5) 自立活動の「時間における指導」と「すべての教育活動における配慮した指導」
⇒各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間においても、自立活動の考え方とねらいが大切



交流学級での授業においてもこの観点は必要！

3 病気の子どもへの対応と自立活動

- 病気の子どもたちは . . .

「みんなと違う」

「がんばってもできない」

「やりたくてもできない」



自尊心 ↓

- 自尊心を高めるためには . . .

自己評価・自己受容

関係の中での自己

自己選択・自己決定

3 病気の子どもへの対応と自立活動

- 合わせて・・・レジリエンスを高める指導を
→（回復力、復元力）

落ち込んでも立ち直る力

失敗したとき、その悪影響を緩和する働きをする



ほめることは何よりも大切！

3 病気の子どもへの対応と自立活動

- ほめること（認めること）
 - ・ できたことをほめる
 - ・ がんばっている過程をほめる
 - ・ 存在をほめる（認める）



アイ・メッセージを！

終わりに

- 周囲に伝える力を・・・
体調を伝えたり、手助けをお願いしたりする力
⇒ 自分から発信できるように
- ずっと病気と付き合っていく子どもたち



将来を見据えた指導を